

## 2021年1-3月期 GDP 予測について

フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一  
 研究員 前田 和孝

### 1. 1-3月期 GDP 成長率は3四半期ぶりのマイナスを予想

内閣府から5月18日に発表予定の2021年1-3月期実質GDP成長率は、前期比▲1.2%（年率換算：▲4.7%）と、コロナ感染再拡大に伴う2度目の緊急事態宣言発出の影響で、昨年4-6月期以来3四半期ぶりのマイナス成長を予想する。

### 2. 個人消費が大きく落ち込む

需要項目別に見ると、個人消費は10-12月期：前期比+2.2%→1-3月期：同▲1.8%と、緊急事態宣言下での飲食店の時短営業や自粛ムードの高まりを受け、マイナスに転じたと予想する。住宅投資は、引き続き底堅いマンション需要等に支えられ、10-12月期：前期比+0.0%→1-3月期：同+0.2%と小幅ながらプラスを維持したと予想する。設備投資は、製造業を中心に持ち直している企業業績や、堅調に推移する輸出が機械投資やDX（デジタルトランスフォーメーション）関連の投資需要を後押しし、10-12月期：前期比+4.3%→1-3月期：同+0.8%と、伸びは鈍化しつつもプラスを維持したと予想する。公的固定資本形成は、順調に進捗していた国土強靱化関連の防災・減災工事や災害復旧工事が一巡したこともあり、10-12月期：前期比+1.5%→1-3月期：同▲0.1%と7四半期ぶりのマイナスを予想する。輸出は、10-12月期：前期比+11.1%→1-3月期：同+1.8%と、設備投資同様伸びは鈍りつつもプラスを確保したと見込む。欧州のロックダウン実施や世界的な半導体不足が下押し圧力になったが、米国向けと中国向けがけん引役になったと予想する。

### 3. 4-6月期は当初の見通しを下回る見込み

4-6月期の実質GDP成長率は、4月25日に4都府県で3度目の緊急事態宣言が発出された影響で、小幅のプラスにとどまるとみる。このまま感染者の増加に歯止めがかからず、緊急事態宣言期間が大幅に延長されることになれば、2期連続のマイナス成長も視野に入る。この点、引き続き感染症の動向次第で不確実性は大きいですが、夏場以降ワクチンの接種が順調に進めば、家計と企業のマインドが上向く展開が期待できる。ペントアップデマンドの発現や、堅調な外需が下支え役となり、年後半にかけての日本の景気は、緩やかな回復基調で推移するというのがメインシナリオである。

## 実質GDP成長率予測

(前期比:%)	20/3	20/6	20/9	20/12	→予測	
					21/3	寄与度
実質GDP	-0.6	-8.3	5.3	2.8	-1.2	—
前期比年率	-2.2	-29.3	22.8	11.7	-4.7	—
民間最終消費支出	-0.6	-8.4	5.1	2.2	-1.8	-1.0
民間住宅投資	-3.7	0.5	-5.7	0.0	0.2	0.0
民間設備投資	1.4	-5.9	-2.4	4.3	0.8	0.1
政府最終消費支出	-0.3	0.2	2.9	1.8	-2.0	-0.4
公的固定資本形成	0.1	2.2	0.9	1.5	-0.1	-0.0
民間在庫品増加(寄与度)	0.1	0.1	-0.2	-0.6	—	0.2
純輸出(寄与度)	-0.4	-3.1	2.6	1.1	—	-0.2
財貨・サービスの輸出	-5.3	-17.2	7.4	11.1	1.8	0.3
財貨・サービスの輸入	-3.1	1.3	-8.2	4.0	2.8	-0.5
内需(寄与度)	-0.2	-5.2	2.6	1.8	—	-1.0
名目GDP	-0.5	-7.9	5.5	2.3	-1.1	—
前期比年率	-2.0	-28.2	23.7	9.6	-4.4	—
GDPデフレーター(前年同期比)	0.9	1.4	1.2	0.3	0.2	—

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411